

令和7年度 第1回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時	令和7年10月3日（金） 10:00～12:00	
開催場所	二宮町役場 第1委員会室	
出席者	委員	出席7名 大田 博樹 委員、帰山 訓 委員、荒木 雅幸 委員、 渋谷 佳代子 委員、井通 隆正 委員、上村 舞子 委員 川平 和代 委員 欠席0名
	町	企画政策担当参事、政策部長
	事務局	政策部企画政策課2名
傍聴者数	0名	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 町長あいさつ 3. 委員長あいさつ 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 二宮町行政評価について (2) その他 5. 閉 会 	
配布資料	資料1	二宮町政策評価委員会委員名簿
	資料2	行政評価について（前年度からの変更点について）
	資料3	総合戦略戦略 KPI 等の見直し状況について
	資料4	施策評価シート
	資料5	施策に関連する事業の説明
	参考資料1	二宮町政策評価委員会条例
	参考資料2	第3期二宮町総合戦略（令和7年9月改訂）

【議事要旨】

(1) 二宮町行政評価について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

・資料2・3について事務局より説明

- 委員会として出した意見を執行者が議論していただき、また、待機児童数に対して入園可能数が常時ホームページで確認できることについて、意見が反映されたことをありがたく思う。この資料は町長まで目を通していいのか。
- 町長、副町長、部長級で構成した本部会議で議論した結果となっています。
- 児童の入園可否についての状況をホームページで確認できることは、移住を考えている方にとっても重要なことなので、移住促進の意味でも良いと思う。
- 放課後子ども教室について、私自身も回数より質というところに共感している。現場の声が反映され、回数を増やしてほしいという意見もある中で、町の方できちんと言っていたことが良かった。

・資料4・5について事務局より説明

施策1

総合計画：「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」

総合戦略：「公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出」

- 公共施設の総延床面積について、成果という部分で温水プールの廃止に伴って削減されたとなっている。老朽化もあり削減していく部分ではあるが、子どもが利用できる施設は大切だと思うので、今後は単に削減を目標とするのではなく優先順位をつけて削減して行ってほしい。
- 温水プール跡地活用のサウンディング調査をすることによって、民間企業に貸し出すことを考えているのか、それとも民間の意見をもらって町として再編成していくのか。また、町でまた新たな施設を整備することになった場合は、削減したものがまた戻るということか。
- サウンディング調査というのは、町が利用可能かという点と、民間の業者に貸すことができるかの両方を確かめるために実施しました。温水プールとしての活用については、設備が古すぎて使えないため、調査を実施した事業者からもこのままでは使用できないという話があり、仮に、民間に貸すのであれば、町の支出により改めて設備を更新しない限り、借りる業者はいないという結論になりました。
そのため、プール以外として民間に貸すことが可能か検討をしています。農林水産業施設を扱う会社であれば、今のプール施設の形はそのままに、農業・林業・水

産業などを建屋の中で実施できる可能性があることから、その検討も含めて、建物を貸すためにはどのような手続きでできるか、県と研究しています。現時点では、町が施設を使用することは考えていないため、延床面積が削減前の数値に戻ることはありません。

- 子育て世代の町民の中には、温水プールが今後どうなるか気にしている方がいる。サウンディング調査について、ホームページでは公開されているが、一般の方の目に届くところに情報がないのが現状だと思う。町民同士で話す際には、室内のスポーツができる施設、親子で遊びに行ける施設が必要だという意見が出ている。農林水産業も良いが、町民の意見も聞いてから判断してもらいたい。
- ◎ 評価指標としては、KPI に沿って達成したかどうかになるので、公共施設を減らせば減らすほど達成率は高くなってしまう。ただ、使用できない施設を所有している訳にもいかないことや、現在は新庁舎の建設に力を入れていることから順番にやっていくという印象である。
- 袖が浦プールはすでに廃止されているのか。
- 現在は休止中です。ただ、袖が浦プールもかなり老朽化しており、すぐに再開するということができないため、温水プールを廃止したことも考慮し、稼働している山西プールのリニューアルを検討しています。
- 令和6年度の成果の中に、床面積が削減されたと書かれているが、温水プールはまだ町の所有物であるのに、それを削減されたという判断をして良いのか。ただ使っていないだけなので、判断基準としておかしいのではないかと。
また、床面積を削減するという目的は、管理費用も含めて削減することだと思うが、休止状態では固定資産税等の費用が発生しているのではないかと。
- 公共施設は非課税なので固定資産税はかからず、現在は、電気等も止めているため、維持費は発生していません。
- 今は普通財産ということか。
- そのとおりです。行政の所有する土地や建物は、使用目的が決まっているものを「行政財産」、決まっていないものを「普通財産」として分別していますが、現在、温水プールの跡地は普通財産となっています。
- 普通財産でも町の所有であり、管理する必要があるのではないかと。
- 具体的な費用はかからないにしても、管理自体は続けなくてはならないことから、延床面積から除外するのは違うのではないかと。
- KPI としている総延床面積は、行政財産の面積という認識なのか。
- そのとおりです。
- ◎ それでは、施策に位置付けている KPI として目標に沿った進捗状況となっているか、本施策に対し委員会としての評価をまとめます。KPI の設定についての意見はあったものの、現時点で延べ床面積等の目標は達成しており、ラディアンの稼働率や図書館の年間貸出者数も減少傾向にはあるものの、概ね達成されていることから、「B：一定の成果があった」としても良いのではないかとと思うがいかがか。

また、本委員会の意見としては、今後、プールの稼働状況など長期的に住民サービスの向上を図る必要があると付記することとしてよいか。

- KPIにある東大果樹園跡地を専用予約で利用した団体は、令和5年度と令和6年度で別の団体なのか。
- 数値の集計方法が積み上げとなっているため、それぞれの実績にある1件は同じ団体です。そのため、令和6年度に新たに利用した団体は0件です。
- この実績を考慮すると、評価としてはCになると思う。
- 東大果樹園跡地を町外の団体に使ってもらうための町としてのPRはしているのか。
- PRなどについては、東大果樹園跡地活用協議会がメインで実施しているため、町からも新規の利用者を増やす努力をしてほしいと話していますが、伸び悩んでいるのが実情です。
- 町としても町外の活動団体に向けた宣伝などを検討していただきたい。
- ◎ 今の意見も踏まえ、目標に向け概ね順調に進んでいるものの、東大果樹園跡地については新規団体数の増加がないことから今後努力が必要と考えられるため、評価は「C：十分とは言えない」としてよいか。また、意見としてもその旨を加え、特に広報活動に力を入れてもらうことを付記する。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「C：十分とは言えない」とする。

施策2

総合計画：「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」

総合戦略：「特色ある教育活動の推進」

「妊娠から子育てまでの切れ目のない支援」

「仕事と子育ての両立支援」

- ◎ 令和6年度の課題の一点目については、保育所や学童保育所の需要は高まっているが、今後は減る可能性もある事から特段の対応はしないということか。
- 決して手を抜くというわけではなく、今後、少子化による利用者の減少を見越した運営を検討しつつも、柔軟な受け入れ体制の維持に努めるという趣旨となっています。
- 保育所等の受入体制が充実しているからこそ、新しい方が来てくれるということではないか。移住で家族を受け入れていきたいのであれば、保育所、学童については余裕がある状態で運営しなければならないのではないかな。そのような面で、仕事と子育ての両立を目指すという目標に影響してくると思う。
資料5の7ページに、「今後の町内の2つの子育てサロンと3つの一時預かりのあり方を検討していく」とあるが、今後統合していく、又は減らしていくという意味なのか。
- 統合も一つの選択肢として入っています。今の受け入れ状況を加味した上で、低

下させることが無いように検討しています。現時点での身の丈に合ったもので今後の受け入れにも対応できるような形を研究するものです。

- 前年度の委員会で「地区ごとに子育て世代が集まり繋がりを強化できるようにした方が良い」という意見に対し、現時点で、町内の子育てサロン等の運営で対応できているという回答があったことから、ここでそれを減らすことを検討することには疑問があるので、子育て世代の繋がりが損なわれることの無いよう考えていただきたい。
- 小中一貫教育について、言われ始めて 10 年くらい経つが、町としていつまでにやるか期限を決めるべきではないか。少なくとも中学校同士だけでも議論を進めることができると思う。
- 教育委員会の計画では、2040 年を目指して進めることとしています。ただ、移住が増え人口の減少が緩やかになっているため、そのあたりも加味したものに見直すことが議論されています。そのため、おそらく 2040 年よりも延びることが考えられます。中学校同士をどうするかは、現時点では議論の対象になっていません。
- 現在、小学校が 40 人学級から 35 人学級へ見直されており、中学校も来年から 40 人学級から 35 人学級になります。そのため、クラスが増えることも考慮にいれながら検討を進めています。
- ◎ 本施策の KPI の達成状況を見ると、ほぼ、A と B になっていることから、それに基づけば評価は B と判断できるように思えるが、英語検定 3 級の取得率のみ C となっていることから、その点をどう捉えるかという視点もある。他に何か意見はあるか。
- 英検の受験に対して、町が奨励金を出しているのか。
- 1 回目の受験に対しては、教育委員会から補助が出ます。
- KPI にある受験率が 50% になった際に対応できるだけの予算を確保し、毎年不用額が出ているということか。
- ◎ そもそも何人受験しているのか。
- 予算については、例年の受験者数平均を当初予算として計上し、それを超えた場合は補正により増額する形をとっています。
- 英検 3 級の取得者が 17.7% から 33.1% へ増えたのは、制度の認知度が向上したことによるものなのか。
- 制度自体は令和元年度からあり、3 級が対象だったものを準 2 級まで拡充しました。当初から学校が周知していたことから、認知度というよりはその年の状況によるものと思います。
- ◎ 要因が学生の能力的な問題だとしたらどうしようもないので、町ができることは認知度を上げていくしかないのではないか。
- 受験者や受験者に対する取得率は別途調べて、次回報告します。
- この制度の目的が英語の勉強に対するモチベーションや、語学力の向上に繋げるためのものであるなら、令和 5 年度から令和 6 年度の増加率は決して悪くないと思

うので上昇率を評価してもよい。

- ◎ そういった点も考慮すれば、「B：一定の成果があった」としてよいか。

また、待機児童数に関する KPI は、目標値は超えているものの前向きな対応が必要と考えられる。ただ、概ね各 KPI の目標は達成しており、英検についても、目標値を下回っているものの前年度と比べると上昇率は評価できるとして意見を付してよいか。

(異議なし)

- ◎ 本施策に対する評価は「B：一定の成果があった」とする。

施策 3

総合計画：「気候変動対策による持続可能なまちづくり」

総合戦略：「豊かな環境の保全と気候変動対策の充実」

- ◎ KPI の 1 人 1 日あたりのごみ排出量について、基準値も目標値も下回っているのになぜ B なのか。

- A の間違いです。修正させていただきます。

- この KPI について、計画値が基準値より高いことが気になる。

- ◎ 課題にある道路構造物とは何を示しているのか。

- 道路や道路を形成するための擁壁、トンネル、橋などを指します。

- ◎ この課題は、どの KPI に該当するのか。

- 道路構造物に関する KPI の設定はありません。

- ◎ 昨今、道路や下水の陥没事故等がある中で、それらの安全性を KPI で管理しても良いと思う。

- 道路維持等に関することは何らかの KPI の設定が必要だと思う。例えば、一色のガソリンスタンドから小田原厚木道路に向かう町道で、トラックの通過による家屋の揺れといった、道路に関して町民から不安の声や苦情が出ている。予算として大きい額を使っている道路維持管理費について、どういう KPI を考えるべきか、その基本となる調査をしてもらいたい。

- 道路や橋などに関して、5 年に 1 回見直しを実施している長寿命化修繕計画があります。これは、全市町村が実施しており、その中で道路全線の調査を行い、次の 5 年間にに向けた修繕の優先順位を付けています。お話のあった町道についても、時期を明言することはできないものの、優先順位が高く設定されています。

- 気候変動に対する KPI の設定が甘いと感じる。町として、気候変動に対して計画を策定していく中で、しっかりとした KPI を設定したうえで進めてもらいたい。

- ◎ 本施策については、概ね全ての KPI について、目標値を達成しているか、それに近いところまで達成しているため、「B：一定の成果があった」としてよいか。

ただし、今後、計画等を策定する中で、道路や環境に関する KPI の設定が必要であるとの意見を付すこととする。

(異議なし)

- ◎ 本施策に対する評価は「B：一定の成果があった」とする。

施策4

総合計画：「誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり」

総合戦略：「地域で支えあう体制の構築」

- ◎ 認知症サポーター養成講座の受講者が激減している原因はなにか。
- これまでは未受講者が多かったため受講者が増えていたが、受講者が多くなったことに伴い受講者数が落ちていると聞いています。
- 指標は年度ごとの集計ではなく、累積の積み上げにした方が良いのではないか。
- まだ受講されていない方が多くいる中で、受講者の裾野を広げていかななくてはならないという考えから現在の設定としています。
- 地域活動に参加している人の割合について、基準値は32%だが、自治会に所属していれば活動に参加していることになるのか。
- 単純に自治会に所属しているだけでなく、活動に参加しているか町民アンケートにより調査をしています。
- 32%という基準値は低いように思うが、3人に1人が地域活動に参加していれば良いというのが町の考えか。
- 令和3年度の実績を基準値としていることから低くなっています。
- ◎ 目標自体の3人に1人の設定が低いと思う。実績数値を見る限り地域力はかなり弱まってきているように感じる。
- 自治会の負担が軽くなればなるほど、携わる方も減るので数値は下がっていくように思う。
- 町から地区に対し選出を依頼されていた、健康づくり普及委員、青少年指導委員等が今後は公募することになった。これらの委員が担っていた活動の停滞が懸念されるので、地区活動に影響が出ないように策を進めていただきたい。
- これまでは、子どものために子ども会に入り、そのために自治会と繋がるという例が多かったと思う。子ども会が解散してなくなっていく中で、地区の子どもたちはどのように繋がっていけば良いのか。
- ◎ 子ども会は自主的な組織なので、住民が自主的に作り上げていくという点で、町が担うことは難しいように思える。
- 二宮小学校は、登校班が廃止になった。全体的に地域の活動が低下している傾向にあると思う。
- 町として自治会に対応を投げかけてしまっている印象があるので、もう少し町から動くべきという点で、評価はCだと思う。
- ◎ 相互扶助の社会を形成していくうえで、現在の目標値があまりに低すぎる点や、それに到達したことで概ね達成とするのは疑問を感じることから、Cとするべきと感じる。
- ◎ これまでの意見に基づき、委員会としての評価は「C：十分とは言えない」として

よいか。

また、人権講演会の出席数や新規相談件数等、概ね目標値は達成しているものの、自治会や自主防災など地域活動の目標値の設定を現実的に合わせて再評価すべきという意見を付すこととする。

(異議なし)

◎ 本施策に対する評価は「C：十分とは言えない」とする。

施策5

総合計画：「活力があふれる、選ばれるまちづくり」

総合戦略：「二宮らしい魅力の創出と発信」

「地域商工業の活性化」

「地域農林業の活性化」

- 町内オリーブの生産量について、実績が4分の1程度まで減っている理由は何か。
- 天候によるところが大きいと思います。収穫の時期に台風が来たため収穫前に実が落ちてしまったことも考えられますが、確認のうえ次回の会議で共有いたします。
- ◎ KPIの達成状況については、事業継承に関する相談件数や遊休荒廃地の復元整備支援件数が計画値を大きく下回っているため、評価にあたってはこの結果をどう判断するかによると思う。
- 荒廃地の復元整備支援件数は、支援要請がないと件数に数えられないということか。
- 農家が荒れている土地を畑になるように重機を入れて復元することに対して、町が補助金を出すものです。基本的には農家の方から声をかけていただくことになり、新規就農者が多いと件数も増える傾向にあります。
- ◎ 目標件数を5件に設定しているが、その根拠がわからない。現実的に目標は達成可能な数値なのか。
- 平らな場所はすでに農地として整備されており、残された山中や斜面地は、なかなか担い手がないことが理由です。
- ◎ 全体的な評価としては、「B：一定の成果があった」でよいか。
- 荒廃地復元に関しては、先ほど説明があったような難しさがある中で、目標値の設定が高いが、3件の実績は悪くない。
事業継承に関しては、そもそも事業継承を考えている事業所が少ないのか、それとも相談に来ないのか。行政側で解決できるものなのか。
- 非常に繊細な内容であり、町や商工会などから勧奨することも難しい。ただ、メインバンクの窓口相談している方もいると聞いている。
- ◎ 本来の目的は事業継承をスムーズにすることであり、事業者が別の窓口を使って取り組んでいることもあると考えれば、達成状況がDでも前向きに捉えても良いと思う。
- ◎ 事業継承と遊休荒廃地については、CとDという評価がついているものの本来の

目的は達成しており、その他の実績についても概ね目標値を達成していることから「B：一定の成果があった」としてよいか。

(異議なし)

◎ 本施策に対する評価は「B：一定の成果があった」とする。

施策6

総合計画：「新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり」

総合戦略：「デジタル技術による行政サービスの向上」

◎ KPIの達成状況において、地域活動に参加している人の割合は基準値を下回っている中でBとしている一方で、連携事業数は基準値を上回っているにもかかわらずCとされているが、感覚的には、連携事業数の方が良いように感じる。

● 達成状況の評価は、計画値に対する実績の数値で機械的に算出している。分母となる計画値によって見え方に差が生じる場合があります。

○ 地域活動に参加している人の割合については、ここで議論するものではないように思える。

○ ここでは、手続きのオンライン化など、行政改革に関する内容を評価するものなので、地域活動に参加している人の割合は違和感がある。

● こちらのKPIは「施策4にて評価」としても良いと思いますので、今後、対応については検討させていただきます。

○ オンライン化については、計画値と比較してかなり順調に進んでいるため、町民サービスの向上に繋がっているように感じる。

◎ それでは、全体的として順調に進捗が進んでいることから、委員会の評価としては「A：十分な成果があった」としてよいか。

また、オンライン化については、予定以上に進んでおり町民サービスの向上に繋がっているため大変評価できるとして意見を付すこととする。

(異議なし)

◎ 本施策に対する評価は「A：十分な成果があった」とする。

(2) その他

●次回会議は11月4日(火)の予定です。

【以上】